

大河津分水路改修事業の早期完了及び信濃川における事前防災対策の加速化について

北信越部会提出
説明担当 長岡市

近年、全国的に豪雨災害が多発しており、令和元年10月の台風第19号では、信濃川上流部の千曲川で堤防が破堤し、長野市では甚大な浸水被害が発生しました。

中流域では、信濃川の多くの観測所で史上最高水位を記録し、破堤はなかったものの、堤防からの漏水や過去に経験のない規模のバックウォーター現象が発生したことで、支川が溢水し、浸水被害が発生しました。

こうした水害から、県民の生命、身体及び財産を守るためには、治水対策のより一層の推進が急務となっています。

よって、国においては、治水対策の充実強化に向け、特に下記の事項を早期に実現されるよう要望します。

記

1 大河津分水路改修事業の早期完了について

現在進められている大河津分水路河口部の拡幅により、流下能力が向上し、本川の水位低下により支川合流部の水位も低下し、水系全体の治水安全度が大きく向上することから、事業を早期に完了させること。

2 緊急治水対策プロジェクト等による事前防災対策の加速化について

信濃川本川の堤防が決壊することによる被害は計り知れないことから、堤防断面や河道断面が不足している箇所について、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトに基づく対策を推進するとともに、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により着実な事前防災対策の推進を図ること。また、流れを阻害し、洪水時処理能力を減少させる河道内の樹木等を計画的に伐採するなどの適切な管理を実施すること。